

遺伝相談についてのアンケート結果

滋賀県立小児保健医療センターでは、平成元年より、遺伝性のある病気や先天異常による不安や悩みをもつ個人や家族の問題を自己解決できるよう、遺伝相談を実施しています。

身近にある遺伝について、皆さんが期待される遺伝相談内容と今後の広報活動を検討するため、アンケート調査を実施しました。

調査時期：平成24年7月

対象者：県政モニター359人

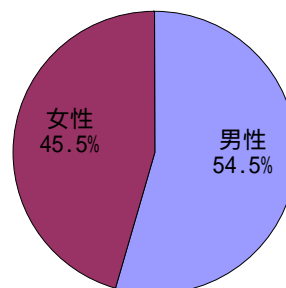
回答数：290人（回収率80.7%）

担当課：滋賀県立小児保健医療センター保健指導部

【属性】

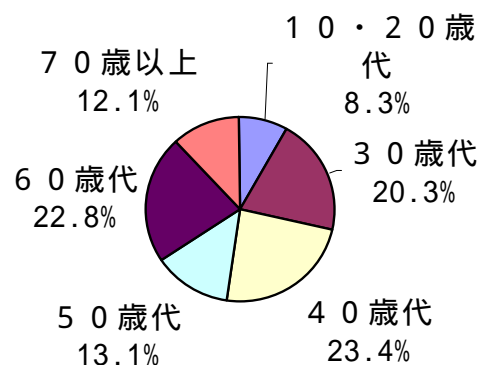
性別

項目	人数(人)	割合(%)
男性	158	54.5
女性	132	45.5
合計	290	100



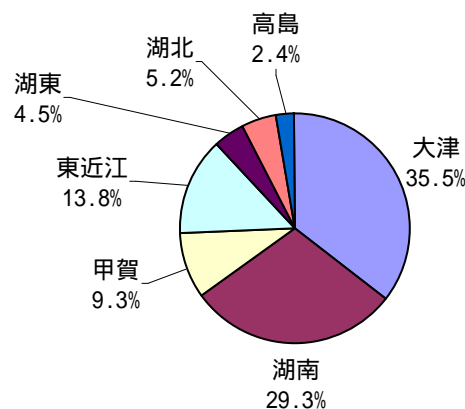
年代

項目	人数(人)	割合(%)
10・20歳代	24	8.3
30歳代	59	20.3
40歳代	68	23.4
50歳代	38	13.1
60歳代	66	22.8
70歳以上	35	12.1
合計	290	100



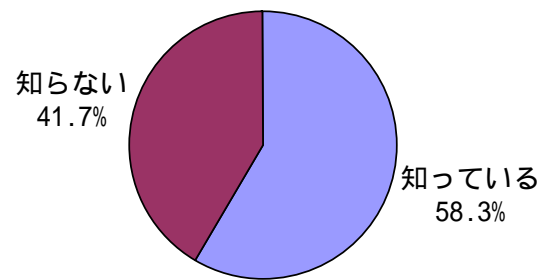
地域

項目	人数(人)	割合(%)
大津	103	35.5
湖南	85	29.3
甲賀	27	9.3
東近江	40	13.8
湖東	13	4.5
湖北	15	5.2
高島	7	2.4
合計	290	100



問1 小児保健医療センターを知っていますか。(回答チェックは1つだけ。 n=290)

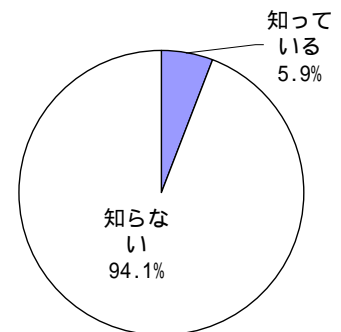
項目	人数(人)	割合(%)
知っている	169	58.3
知らない	121	41.7
合計	290	100



問2 小児保健医療センターで遺伝相談を実施していることを知っていますか。

(回答チェックは1つだけ。 n = 290)

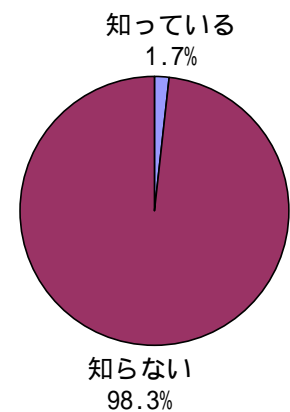
項目	人数(人)	割合(%)
知っている	17	5.9
知らない	273	94.1
合計	290	100



問3 遺伝相談専用電話「カリヨンダイヤル」があることを知っていますか。

(回答チェックは1つだけ。 n = 290)

項目	人数(人)	割合(%)
知っている	5	1.7
知らない	285	98.3
合計	290	100

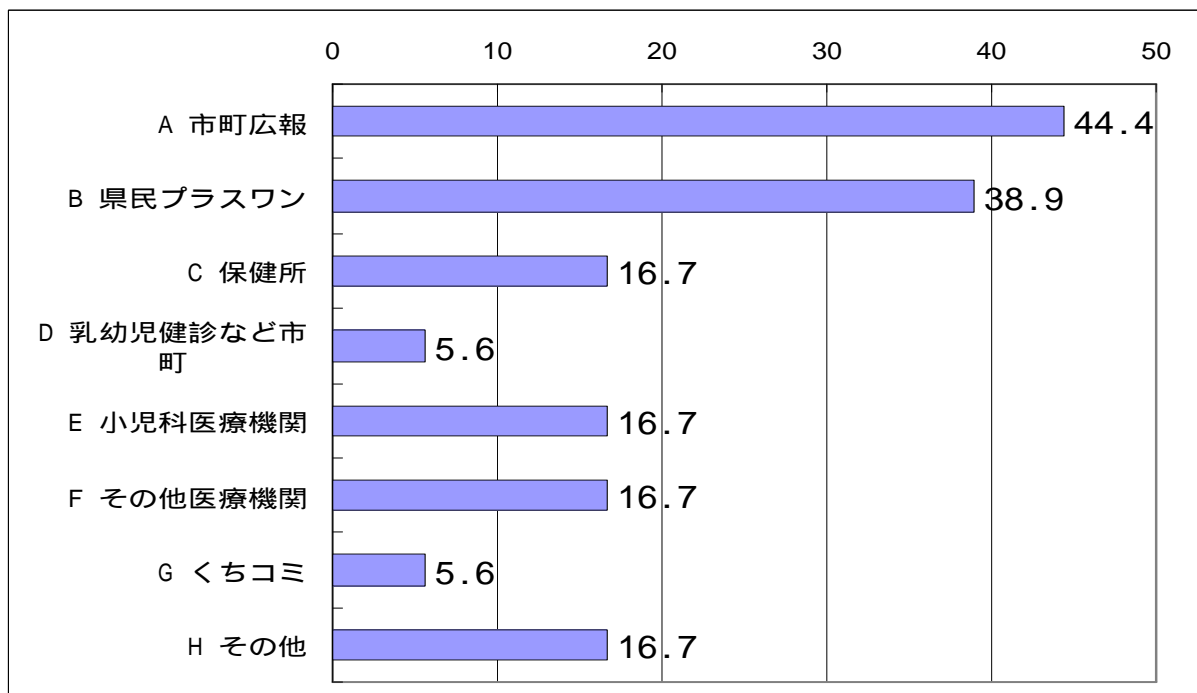


問4 問4は、問2か問3で「1.知っている」と回答された方にお伺いします。

小児保健医療センターの遺伝相談または遺伝相談専用の電話「カリヨンダイヤル」を知ったきっかけを教えてください。(回答チェックは複数回答。 n = 18)

項目	人数(人)	割合(%)
A市町広報	8	44.4
B県民プラスワン	7	38.9
C保健所	3	16.7
D乳幼児健診など市町	1	5.6
E小児科医療機関	3	16.7
Fその他医療機関	3	16.7
Gくちコミ	1	5.6
Hその他	3	16.7
合計	29	-

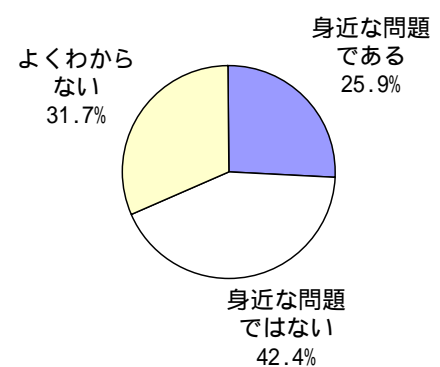
(%)



問5 あなたにとって、遺伝の問題は身近な問題ですか。

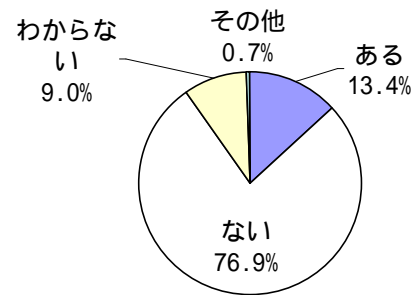
(回答チェックは1つだけ。 n = 290)

項目	人数(人)	割合(%)
身近な問題である	75	25.9
身近な問題ではない	123	42.4
よくわからない	92	31.7
合計	290	100



問6 あなたは、遺伝について相談したいと考えたことがありますか。(回答チェックは1つだけ。 n = 290)

項目	人数(人)	割合(%)
ある	39	13.4
ない	223	76.9
わからない	26	9.0
その他	2	0.7
合計	290	100

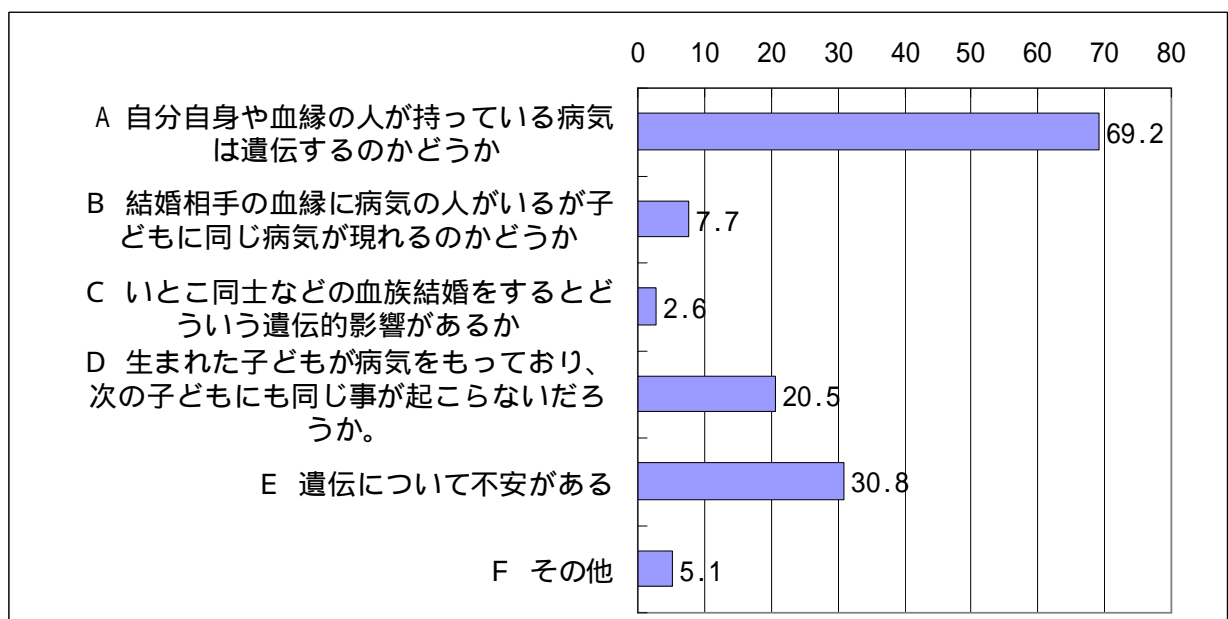


問7 問7は、問6で「1.ある」と回答された方にお伺いします。

あなたが相談しようと思った内容を教えてください。(回答チェックは複数回答。 n = 39)

項目	人数(人)	割合(%)
A 自分自身や血縁の人が持っている病気は遺伝するかどうか	27	69.2
B 結婚相手の血縁に病気の人がいるが、子どもに同じ病気が現れるかどうか	3	7.7
C いとこ同士などの血族結婚をするとどういいう遺伝的影響があるか	1	2.6
D 生まれた子どもが病気をもっており、次の子どもにも同じ事が起こらないだろうか。	8	20.5
E 遺伝について不安がある	12	30.8
F その他	2	5.1
合計	53	-

(%)



問8 その他、小児保健医療センターの遺伝相談についてご意見・ご要望をお聞かせください。(自由記述抜粋)

- ・モニターアンケートで初めて小児保健医療センターと遺伝相談についてきいた。アピール不足である。積極的な広報や宣伝が必要。(産婦人科医療機関、市民相談窓口、県や市の広報、若い人、妊婦や妊娠を考えている方)
- ・小児保健医療センターを利用していても遺伝相談については知らなかった。
- ・あまり県民になじみのない機関なので相談内容例などを広報すると利用者が増えていくのではないか。
- ・癌、痣、アレルギー、特定疾患、発達障害、コレステロール、視力障害などについてどの程度親の影響を受けるのか知りたい。
- ・気軽な相談ができるようにしてほしい。
- ・相談については極秘で実施し、絶対に情報を漏らさない事。守秘義務など個人情報の管理を徹底してやってほしい。
- ・精神的なサポートも必要。
- ・相談をうけたら適切な対応を。
- ・十分な告知体制の見直し、遺伝相談について相談される方への配慮と周囲の方への正しい認識を持ってもらうことが大事。
- ・知っておいた方が良いことは早く知りたいと思いますが、どこまで知りたいのか、その後どうしたいのかなどの専門的なフォローも同時に必要になると思います。遺伝は命に関わる事が多く、その扱い方の難しさを感じます。
- ・遺伝で悩み、相談を希望する人にとっては専門職による相談機関は必要だと思う。
- ・今まで考えたことのない内容でした。遺伝相談によって前もってわかることで防げるのであれば、病気の遺伝的影響を防げることはいいことのような気がします。ただ、いろいろな使命や宿命のもとに生まれてくる自然の営みを操作することについての恐ろしさがあります。慎重に取り扱っていただきたいと思います。
- ・誰もが遺伝によるなんらかの障害を持っている。大きい小さいかのことであり、相談にのってもらおうとは思わない。治してほしい。
- ・最近インターネットで様々な情報が検索できますが、その情報が正しいか判断がつかず、不安をあおられるばかりです。ちゃんとした機関に専用窓口があると頼りになります。
- ・不安があるままでは良い方にも悪い方にも進まないで正しい知識を知ることは必要であると思う。しかし、相談してもまだまだ解明されないことも多いのでそのことを知った上での参考にしかならないということを知らせることも必要だと思う。